2023(R5)年度 学校教育自己診断アンケート総括

20240129 運営委・0205 職会　佐藤 弘康

Ⅰ　今年のポイント

「E.判断できない。わからない」が多い質問項目は 3 年間の結果がそろった後に総括に加える。

Ⅱ　自己診断アンケートを巡る情勢 ㊞

①条例による義務化。

②結果から課題の克服策を打ち、結果を再びアンケートで問うことの義務化。

③学校ホームページで公開することの義務化。

Ⅲ　回収数　web 実施 4 年目。2 年連続で保護者の提出率減少。提出数 30%以下は 2015 年以来。

回収率が 30%だった昨年よりさらに減少。昨年度よりクラスルームの保護者アカウントを導入している。全保護者のログインを早急に完了させ，学校からの連絡や情報共有のツールとして定着を図っていく必要がある。

		2023 年度		2022 年度		2021 年度		2020 年度		2019 年度	
生徒	提出数	605		649		745		832		805	
	在籍数	674		702		772		808		817	
	提出率	89.7%		92.4%	-4.1	96.5%	-2.0	102.9%	*	98.5%	+5.9
保護者	提出数	176		215		382		575		245	
	在籍数	674		702		772		808		817	
	提出率	26.1%		30.6%	-18.8	49.4%	-21.7	71.1%	+41.2	29.9%	-8.1
教	提出数	45		55		42		52		58	

Ⅳ　全体の特徴　生徒評価は改善し 8 割台に。教員の自己評価も改善するも，保護者評価は微減。

大阪府の基準でプラス評価の比率を表にすると以下の通り。　府教委基準の評価 P=(A+B)*100/(A+B+C+D) 単位%

府教委 P	2023 年度		2022 年度		2021 年度		2020 年度		2019 年度	
	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比
生徒	81.6	+3.9	77.7	-0.4	78.1	+4.3	73.8	+3.2	70.6	+2.4
保護者	79.8	-1.0	80.8	+0.1	80.7	+3.9	76.8	-2.2	79.0	+1.2
教員	78.4	+1.2	77.2	+4.1	73.1	+8.9	64.2	+15.6	48.6	-7.1

保護者の肯定的評価が減少するのは 3 年ぶり。教員のプラス評価は 4 年連続増加。

保護者のプラス評価が高い項目

21 学校では子どもに関する個人情報が守られている(97P) 29 学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している(94P) 16 学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている(89P) 26 学校は社会や地域貢献活動に力を入れている(89P) 13 文化祭や体育祭などの学校行事は楽しく行うよう工夫されている(88P) 7 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる(87P) 26 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている(87P) 12 学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている(86P)

Ⅴ　個別的内容

⑴「わかる授業」をめざした改善は効果維持も保護者評価変わらず。次は家庭学習と自学習の定着を図る

授業におけるＩＣＴ機器の活用はほぼ定着したとみる。ただ保護者の評価とは乖離がある。生徒の家庭学習と自学習の定着を図るための策，同時に基礎学力向上に資する取り組みを模索していく段階ではないか。

(生徒)プラス評価の割合(%)	2023	2022	2021
41.学校では１人１台端末が効果的に活用されている	94	88	項目なし
32.ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。	89	83	88
7.教え方に工夫をしている先生が多い。	84	81	84
4.授業はわかりやすい。	78	73	76
33.他の先生が授業を見学に来ることがある。	78	76	83
6.授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	76	70	66
8.授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	75	70	73
40.授業や体験活動を通して、自信がついた	72	62	64
(保護者)　4.子どもは授業がわかりやすいと言っている。	57	57	61

⑵過去３年間(2020-2023)連続で「判断できない・わからない」の数値が高い質問項目。

(生徒)プラス評価の割合(%)	2023	2022	2021
２７．生徒会活動は活発である	27%	27%	29%
３５．学校は各種検定試験の指導に力を入れている	21%	22%	23%
３７．学校は社会貢献活動に力を入れている	21%	23%	26%
２．この学校には，他の学校にない特色がある	21%	21%	21%
(保護者) ２８．学校はいじめ等について子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	47%	44%	49%
９．学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	43%	40%	38%
２６．　学校は社会や地域貢献活動に力を入れている。	43%	40%	39%
２３　PTA 活動に参加できる機会がある。	37%	32%	43%

生徒会活動・社会貢献活動は改善傾向。「学校の特色」については「社会貢献活動」と絡めて取り組むことで生徒の周知をはかっていく。上述の保護者クラスルームアカウントにも情報発信をするなど保護者の認知度も高めていきたい。

Ⅵ　今後の課題

⑴「生徒指導提要」の 12 年ぶり改訂。チーム学校・学年や分掌横断体制・教育相談と一体となった支援・家庭や関係機関との連携協働等がさらに求められる。社会の変化に対応できる指導体制を構築していく。㊞

⑵ 学校の教育活動のＩＣＴ化を継続して推進。業務改善にもＩＣＴ機器やアプリ等を積極活用して教員が生徒と関わる時間を増加させ，⑴の充実をめざす。

⑶働き方改革推進と安定した学校経営を両立するためには（教員）「初任者等，経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(+ポイント 34(2023)42(2022) 29(2021)と低迷）を早急に改善する必要があるのではないか。従来の校内研修以外の取り組みも模索していく。